

かお・人・interview

2022年12月2日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
大分河川国道事務所 所長

河崎拓実氏

KAWASAKI Takumi

大分河川国道事務所は、一級河川の大分川・大野川、ななせダムの改修や維持を行い、道路では、大分県内外の主要都市を結ぶ国道10号、210号の管理と整備を行う。また、権限代行の三光本耶馬溪道路は、中津港と日田地域を結ぶ重要な道路であり、沿線には青の洞門や羅漢寺など観光地も多く、安全安心な生活環境と観光ルートを形成するため、一日でも早い開通が期待されている。

現在取り組んでいる事業や課題について河崎所長に話を伺う。

Q所長就任にあたっての抱負

当事務所は、大分県の中部・北部・西部を所管しており、大分川、大野川の2河川の整備と維持管理、ななせダムの管理、国道10号、210号の国道2路線の管理と整備、また、権限代行で国道212号の中津日田道路の整備の一部である三光本耶馬溪道路を担当しています。さらに、令和3年度からは中九州横断道路大分～犬飼間の計画段階評価も実施しています。県都大分市を含む県内でも非常に重要な河川、道路を所管しており、大分県の経済や生活の基盤となる、なくてはならないインフラを所管する重責を担っていると認識しています。特に大分は近年、度々災害に見舞われていることもあり、これらのインフラの重要さは地域の方々にとってもよりいっそう強く認識されているものと思います。期待に応えられるよう職責を果たしていきたいと思っています。



▲大分川河口部

Q九州と大分の関わりについて

九州勤務は今回が初めてです。これまでは北海道開発局の本局(札幌市)や各地(網走市、留萌市、函館市等)の出先、それに東京の本省と他省庁での勤務が多く、九州は出張で訪れた程度しかなかったため、土地勘がほとんどなく最初は地名を覚えるのにも苦労しました。仕事の面では主にこれまで自身が北海道で見てきたことと大分で行われていることで工法、手法等の違いを感じる点がありました。なぜこちらではこのような方法が多く使われているのかという疑問からも、こちらの気候や地域条件の特徴を理解していくことに努めています。



三光本耶馬溪道路は、山間部を通る道路であり
地盤の状況から難工事が多く、さらに沿線には名勝地もあり
景観に配慮した工事が求められます。

▲三光本耶馬溪道路(中津市)

Q今年度の事業概要



▲ななせダム

河川事業では、大分市内を貫流する2つの一級河川である大分川・大野川水系の国管理区間(大分川水系26.8km、大野川水系32.3km)での改修・維持管理を行っています。併せて、大分川水系七瀬川上流に建設した「ななせダム」の管理(試験湛水中)も行っています。

大分川では、中上流部における流下能力不足対策として、樹木伐採や河道掘削等を進めています。中流の湾曲部では昭和28年の堤防決壊の実績を踏まえ、洪水時の越水に対する粘り強い堤防の構築に向けて、堤防強化対策を令和3年に着手し進めています。また、大野川では、中流の湾曲部において河床低下対策を進めており、併せて粘り強い堤防の構築に向けた堤防強化対策も令和3年に着手し進めています。

道路事業では、大分県中部及び北西部の国道10号、210号の2路線、延長201.1km(沿線市町住民約90万人)の道路管理を行っています。また、地域間連携の強化、耐災害性の強化や都市圏の交通課題を解消するために改築事業を行うとともに、交通安全や都市内の無電柱化の事業を推進しています。

さらに、令和2年7月豪雨による豪雨災害により一時は全延長50kmにわたり通行止めを余儀なくされた国道210号について、早期復旧を目指し強力で復旧作業を進めています。



▲令和2年7月豪雨 国道210号日田市赤岩地区被災直後



▲国道210号日田市赤岩地区復旧状況

改築事業においては、三光本耶馬溪道路のうち、田口IC～青の洞門・羅漢寺IC間(5.3km)を令和5年度の開通を公表して改良工事、橋梁工事、舗装工事等を進めています

渋滞解消と交通安全向上を図る国道10号高江拡幅、国道210号横瀬拡幅の4車線拡幅事業は、用地買収や改良工事等を推進し、さらに、防災工事として進めている川下改良については、今年度工事に着手する予定です。このほか、管内8箇所交通安全事業と3箇所

の電線共同溝事業を推進中です。また、令和3年度からは、中九州横断道路のうち県内唯一の未事業化区間である大分～犬飼間の計画段階評価にも着手しています。

Q 地域との連携・協働について

河川については、河川・ダム
の利活用、美化活動、防災・環境
学習といった活動を各地域の
特色に合わせ、地域住民や学
校、河川協力団体(大分川2団
体、大野川1団体)、関係自治体
など様々な団体と連携して取り
組んでいます。特に大分川では
令和3年に地域のイベントと連
携した水辺でのアウトドアイベ
ント等の社会実験を実施しまし
た。その活動が実り、令和4年8
月9日付で「大分川下流域かわ
まちづくり」計画が登録されま
した。今後も河川に親しむ空間づ
くりや賑わいを創出する取り組
みを支援していきます。

大分県は西部には九重連山や由布岳、東部には別府湾を境に北部沿岸は遠浅の砂浜、南部はリアス式海岸が続く特徴的な地形を有し、管内には3つの日本風景街道のルート(別府湾岸・国東半島海への道、九州横断の道やまなみハイウェイ、豊の国歴史ロマン街道)があり、様々な活動が行われています。当事務所もこれらの活動と連携し、伴走しながらともに活動しています。道守大分会議とは、毎年開催される「大分国際車いすマラソン」や「別府大分毎日マラソン」の前日に、共同で道路清掃を行う事が恒例となり、この一大イベントを盛り上げています。

また平成27年度からは、「日本風景街道」「道守」に加え、同じ「みち」のキーワードで繋がる「道の駅」とが連携した「3つの輪」の取り組みをスタートさせ、今年3月には湯布院で第7回目のシンポジウムを開催しました。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

まずは、管内で発生した令和2年7月と令和3年8月の豪雨災害の復旧に多大なご協力をいただいていることに深く感謝申し上げます。これらの災害対応では被災直後から建設業界、建設関連業界の皆様には、応急

復旧や復旧に向けた調査・検討等、迅速に対応していただきました。現在も被災箇所の少しでも早い本復旧を目指し工事が続いており、たくさんの方々が頑張ってくれています。いざというときに機動的に動くことができる

こうした方々が各地域にいらっ
しゃることが地域を守ることに
とって非常に大事なことだと思
っています。

一方で、業界の人手不足、若
者の入職者が少ないといった
課題も認識しています。私たち
自らの職員と、ビジネスパート
ナーたる業界の方々の双方の
働き方改革を一緒になって進
めていくとともに、「地域の守り
手」であるやりがいのある仕事
を多くの方が目指してもらえ
るようPRも連携して取り組んで
いきたいと思っています。

Q 趣味や健康法、座右の銘について

北海道でも東京にいた頃も

ずっとドライブと温泉巡りを一番の趣味にしてきました。大分は各地に素晴らしい風景とたくさんの温泉があるので、週末はなるべくまとまった時間を作って地域を巡ろうと思っています。古い石橋や沈下橋等、歴史ある土木構造物が多くあるのも大分の特徴だと思います。管内を深く知るためにも、できるだけたくさんのお場所を自分の目で見て回りたいですね。



▲国道10号高江拡幅(大分市内)



▲3つの輪シンポジウム(R4.3.6.由布市)

プロフィール



出身地：北海道
生年月日：昭和51年10月3日(46歳)
H13年4月 北海道開発局 有珠復旧事務所入省
H15年3月 国土交通省 総合政策局建設振興課
建設振興第三係長
H17年4月 国土交通省 道路局地方道・
環境課道路交通安全対策室 生活空間係長
H18年4月 国土交通省 北海道局 参事官付主査

H19年4月 北海道開発局 網走開発建設部道路第1課 道路調査専門官
H21年7月 北海道開発局 開発監理部開発計画課地域連携推進室
地域連携専門官
H23年4月 北海道開発局 旭川開発建設部 道路計画課長
H24年4月 国土交通省 道路局 企画課長補佐(併任)内閣府 政策総括官
(経済社会システム担当)付参事官(社会基盤担当)付参事官補佐
H26年4月 北海道開発局 留萌開発建設部 特定道路事業対策官
H28年4月 道路局企画課(併任)大臣官房監察官
(併任)内閣府 民間資金等活用事業推進室 参事官補佐
H30年4月 北海道開発局 事業振興部工事管理課 工事評価管理官
R2年 4月 北海道開発局 函館開発建設部函館道路事務所長
R4年 4月 現職